

過疎地域における高齢者の交通挙動特性について

秋田高専 正員 折田 仁典

1. はじめに

我が国の高齢者比率は年々高くなっており、厚生省人口問題研究所によれば、昭和75年に15.6%、95年には21.8%になると予測されている。このような人口の高齢化は、若年層の地域外流出に悩む過疎地域で特に顕著で、なかには昭和95年の国の予測値に達するほど高齢化が進んでいる地域もみられる。人口の高齢化は必然的に就業者の高齢化を招き、過疎地域の中には高齢者と言えども地域にとって重要な「戦力」となっているところもある。

この傾向は増々高まり、地域の活動に大きな影響を及ぼすようになるものと予測される。ところで、このように高齢者が地域社会の重要な役割を担わなければならなくなってくると、都市部とは異なった視点から高齢者のモビリティ確保が過疎地域の振興に重要な課題となってくる。本研究は、このような視点から将来の過疎地域における高齢者の交通を考える際の基礎資料を得ることを目的に、その交通挙動について調査、分析を行なったものである。

表－1 解析対象地域の概要

地域名	人 口 (人)		高齢者比率 (%)	
	昭和40年	昭和60年	昭和40年	昭和60年
阿 仁 町	9,859	5,596	6.2(3.0)	19.6(6.0)
鳥 海 町	11,534	8,287	4.8(2.8)	13.2(4.6)
皆 瀬 村	4,328	3,521	6.9(5.6)	16.0(8.2)
都 市 部	543,994	675,028	5.3(3.1)	11.2(4.5)
県 全 体	1,279,835	1,254,032	5.8(3.5)	12.6(5.2)

2. 調査対象地域の概要および分析方法

調査、分析の対象地域として秋田県内で過疎化の著しい3地域(阿仁町、鳥海町、皆瀬村)を選定した。これらの地域はいずれも山間部に位置し、年間最大積雪深は150～200cmに達する県内でも有数の積雪寒冷地域である

表－1は、3地域の高齢者比率を示したものであるが、とくに阿仁町では高く、20%に達する値となっている。

本研究では、分析対象の高齢者を60歳以上とした。これは、都市部での高齢者の交通挙動の分析で60歳以上を対象とした既往研究があり、都市部との比較をも試みようとしたためである。分析項目は交通目的別利用交通手段、冬期積雪時における交通手段の転換率及びその理由などである。

3. 分析結果

表－2は分析に用いたサンプルの年齢階層および免許保有率を示したものである。

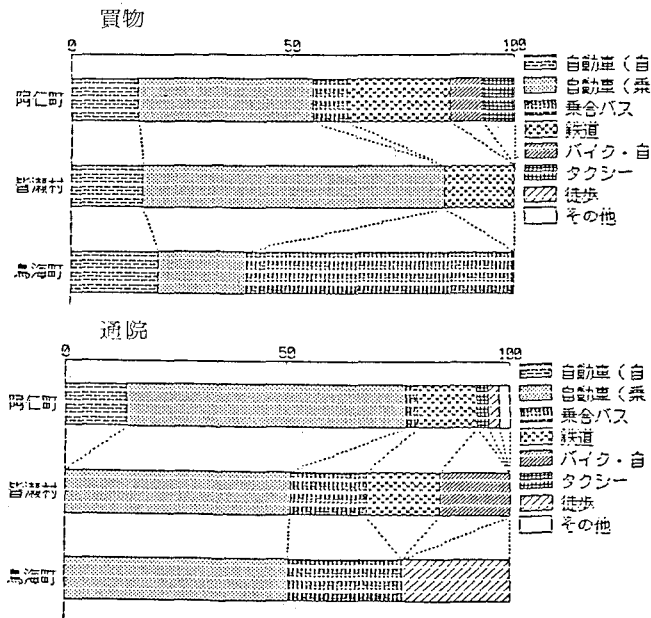
免許保有率は60歳代の階層で高く、その種類としては「原付」「普通」が多い。高齢者のため、交通上の理由から外出に際して支障があるかを「ひんばんにある」「ときどきある」「たまにある」「ほとんどない」の4カテゴリーについて分析したところ、程度の差はあれ、阿仁町(41.7%)、鳥海町(37.0%)、皆瀬村(57.2%)と高率で、「出かけられないことがある」となっている。外出の際の支障がある交通目的は、「日用雑貨の買物」「通院」「役場などへの所用」などである。このような結果をみると、これら3地域では高齢者のモビリティが確保されているとは言い難いようである。

3.1 交通目的別利用交通手段

高齢者にとって外出する際、交通上の制約が大きい交通目的、買物及び通院について、利用交通機関を分析した。図－1はその結果である。買い物交通についてみると、皆瀬村における自動車(自分で運転)、およ

表－2 解析に用いたサンプル

地域	阿仁町	鳥海町	皆瀬村
年齢			
60歳代	121	135	133
70歳代	42	28	33
80歳以上	11	3	4
計	174	176	170
免許保有率	22.5%	39.3%	23.9%



図一 交通目的別利用交通手段

び自動車相乗り(乗せてもらう)の分担率が非常に大きい。同様に阿仁町でも「自動車」の分担率が高く、次いで鉄道となっている。一方、通院ではいずれの地域でも自動車の相乗りが多く、次いでバス、鉄道である。ところで、自動車の相乗り、バス、鉄道は利用者の移動希望に沿って運行されるものではなく、運転する人の自由度、あるいは運行時間によって運行される。したがって、乗せてもらう側からみるならば、制約がある。このようなことから、前述の「外出時制約がある」の結果になったものと推測される。

3.2 冬・夏期別利用交通手段

夏期に利用していた交通手段を冬期積雪時に他の交通手段に転換する人は、阿仁町11.5%、鳥海町23.1%、皆瀬村 9.4%であった。交通手段別にみると、自動車の転換率が最も高く、高齢者ドライバーにとって積雪の影響は非常に大きいと思われる。一方、マストラの転換率は小さく、通年利用の人が多い(表-3 参照)。

4. まとめ

過疎地域ではマストラのサービスレベルが低く、このため概して自動車の分担率が高いが、高齢者にとっては通院、買物などの交通目的でマストラの利用率が非常に高い。また、都市部の高齢者にはみられない「自動車の相乗り」も非常に多く、過疎地域の高齢者の交通挙動の大きな特徴のひとつといえよう。

《参考文献》

折出、清水「過疎地域における交通手段選択行動に関する調査、分析」 交通学研究 P.51~60 1985
清水「高齢者の交通行動に関する調査・分析」 都市計画別冊第18号 P.421~426 1983

表-3 冬夏期別利用交通手段

阿仁町

冬	自動車	バス	鉄道	徒歩	その他	計
夏						
自動車	34 (81.0)	0 (0.0)	7 (16.7)	1 (2.4)	0 (0.0)	42 (100)
バス	1 (4.3)	21 (91.3)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	23 (100)
鉄道	1 (2.1)	0 (0.0)	45 (93.8)	1 (2.1)	1 (2.1)	48 (100)
計	36	21	52	3	1	113

鳥海町

冬	自動車	バス	鉄道	徒歩	その他	計
夏						
自動車	32 (64.0)	11 (22.0)	3 (6.0)	4 (8.0)	0 (0.0)	50 (100)
バス	3 (4.8)	55 (87.3)	2 (3.2)	3 (4.8)	0 (0.0)	63 (100)
鉄道	0 (0.0)	2 (25.0)	6 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100)
計	35	68	11	7	0	121

皆瀬村

冬	自動車	バス	鉄道	徒歩	その他	計
夏						
自動車	29 (78.4)	7 (18.9)	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	37 (100)
バス	0 (0.0)	55 (98.2)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	56 (100)
鉄道	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100)
計	29	62	1	2	0	94